

「ツーリズムEXPOジャパン2026」出展に係る 観光PRブース企画・設営等業務 仕様書

この業務仕様書（以下「仕様書」という。）は、公益社団法人福井県観光連盟（以下「連盟」という。）が実施する「ツーリズムEXPOジャパン2026」出展に係る観光PRブース企画・設営等業務（以下「本業務」という。）に係るものとする。

1 本業務の概要

(1) 目的

アジア最大級の旅の総合イベント「ツーリズムEXPOジャパン2026」（主催：公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会、日本政府観光局）へ観光PRブースを出展し、福井県の旬の観光情報や食の魅力等を発信する。これにより、福井県への誘客およびインバウンド需要の拡大を図る。

(2) 契約期間等

契約締結日から令和8年10月30日（金）

（作業期間詳細）

○ 製作期間

契約日～令和8年9月21日（月）

○ 設営・展示会

設 営 日：令和8年9月22日（火）～令和8年9月23日（水）

展 示 会：令和8年9月24日（木）～令和8年9月27日（日）

[業界日]令和8年9月24日（木）～令和8年9月25日（金）

[一般日]令和8年9月26日（土）～令和8年9月27日（日）

撤去・搬出：令和8年9月27日（日）

○ 履行場所：東京都江東区 東京ビッグサイト（東京国際展示場）

(3) 業務の内容

- ・ 出展ブースの企画および装飾（連盟等との事前調整、主催者等への関連書類提出を含む）
- ・ 出展準備、出展期間中のブース全体運営
- ・ 来場者集計、実績報告（事業終了後のフォローアップ）
- ・ その他、業務目的を達成するための企画提案（任意）

2 トータルコンセプト

- (1) 開催地域の特性を生かした展示・情報発信を行う。
- (2) 体験コンテンツなどを活用し、来場者が非日常感を感じ、福井の情報や魅力に触れ、福井へ実際に行ってみたいと思うきっかけになる展示内容とする。

3 コンテンツテーマ

ブース内の各コンテンツにおいて下記のテーマに沿ったブース展開を行い、世代を問わずどの来場者も満足するPRを企画し、実施・運営すること。

「いいとこ、掘りだくさん。」

- ・掘れば掘るほど、魅力が溢れてくる福井県らしさを表現し、「恐竜」「化石」「地層」「年縞」「一乗谷」等をイメージしたブースとする。

4 ブース出展企画・実施にかかる留意事項

- (1) 集客の目玉となるような大型のモニターまたはスクリーン、パネルなどを活用し、集客効果の高いPR、情報発信を行うこと。
- (2) 多くの来場者がブース全体を周回しやすい動線確保した企画を実施すること。時間帯により開催するイベント（食文化PRコーナーでの実演・試食含む）を実施する場合はイベントスケジュールを作成すること。
- (3) 連盟および共同出展者と十分調整のうえ、福井県ブース全体として一体感のある展示・装飾となるよう全体の色調やレイアウトを工夫すること。
- (4) 当日運営に必要なマニュアルを作成すること。マニュアルにはスタッフ1人1人の役割・シフトを記載すること。
- (5) 提案内容には福井県ブース内で使用する展示什器および電源の確保も含めること。
- (6) 設営、実施企画に応じ、必要となる主催者等への申請を漏れなく行うこと。
- (7) 体験にかかる時間も考慮し、行列が長くなるないように、行列が交差したりすることがないように計画すること

5 役割分担

会期当日における連盟（県・市町参加者含む）の人員および配備場所は以下を目安とする。なお、下記（1）～（3）で不足する人員および各コーナーに必要な人員については受託者が配備すること。特に行列整理やブースへの呼び込みなど各コーナー運営業務以外の配備に留意すること。

配備場所/日程	9月24日（木） ～25日（金）	9月26日（土） ～27日（日）
(1) 観光情報コーナー	2名	4名
(2) インフォメーションコーナー 体験ワークショップ	2名	4名
(3) 全体調整・商談会運営	1名	1名
合計	5名	9名

6 ブース運営スケジュール

[通し設置コーナー] 令和8年9月24日（木）～令和8年9月27日（日）

- ・ 記念撮影コーナー
- ・ 観光情報コーナー
- ・ 食文化PRコーナー（展示）
- ・ インフォメーションコーナー、体験型ワークショップ

[業界日] 令和8年9月24日（木）～令和8年9月25日（金）

- ・ 商談会

[一般日] 令和8年9月26日（土）～令和8年9月27日（日）

・ 食文化PRコーナーにおける実演、試食会

	22日 (火)	23日 (水)	24日 (木)	25日 (金)	26日 (土)	27日 (日)
	設営日		業界日		一般日	
8:30						
9:00						
9:30			ミーティング・準備	ミーティング・準備	ミーティング・準備	ミーティング・準備
10:00						
10:30						
11:00						
11:30						
12:00						
12:30						
13:00						
13:30						
14:00						
14:30						
15:00						
15:30						
16:00						
16:30						
17:00						
17:30						
18:00						
18:30						
19:00						
19:30						

7 ブース設営・装飾及び撤去

(1) ブース装飾面積 10小間 (短辺9.5m×長辺9.5m 90㎡) (予定)

(別添1参照)

小間 (区画) 渡しによる装飾方式とする。

このほか、会場内にてレンタルルーム2部屋 (W3m×D3m×H2.7m) を借り受ける予定。1室を各種備品・荷物等のスペース、もう1室を参加者荷物置き場とすること。

(2) 「地層」「発掘」をイメージした装飾を施し、ツーリズムEXPOジャパン推進室による過去のブースグランプリ受賞ブースを参考に来場者の関心を引く視認性および訴求力の高いブースとすること。ただし、大型の装飾を設置する場合は安全面については十分に配慮すること。

(3) 来場者がブース外に滞留 (行列の発生等) しないようレイアウトとすること。レイアウトについては過去回の出展要項や施設利用ガイドライン等を遵守した設計とすること。

(4) ブース内は原則として一方通行とし、来場者が各コーナーに滞留しすぎない動線計画を行うこと。

- (5) ブースレイアウトについては柔軟に対応するものとし、主催者によるブース配置図の発表（例年8月末～9月初旬）後に連盟と協議の上ブースレイアウトを決定すること。
- (6) 目を引くようなアイキャッチを設置し、明確に「福井県」と表示すること。アイキャッチは福井県を象徴するようなものをモチーフとすること。
- (7) 「いいとこ、掘りだくさん。」のロゴマーク使用に当たっては、福井県交流文化部誘客推進課が定める使用マニュアルを遵守すること。
- (8) 最終日終了後にブース撤去作業を実施し、必要な物品は連盟に持ち帰ること。現地においてパンフレット等の廃棄業務があることを念頭に置くこと。

8 ブース運營業務

- (1) ブース運営責任者を配置し、ブース全体の状況を常に注視すること。
- (2) 受託者が設置する設備、機器等の操作・トラブル対応にかかる人員を配置すること。
- (3) ツーリズムEXPO期間中に連盟職員が関係者と連絡を取るための携帯電話を1台レンタルし、会期開始の1ヶ月前までに電話番号を連盟に提示すること。
- (4) 福井県ブースの各コンテンツやイベントのPRポスター、チラシなどを事前に制作すること。
- (5) 他ブースに影響がない配置とし、ブース内及び周辺通路に流動阻害が発生しないよう運営すること。
- (6) 来場者の中にはベビーカーや車いす利用者もいることを想定し、余裕のあるレイアウト（通路、展示物）にすること。

9 商談会コーナー設営・撤去業務

- (1) 業界日（令和8年9月24日（木）～令和8年9月25日（金））における商談スペースについては2対2の計4名ほどが対面で商談できるデスクを10カ所以上配置すること。
- (2) 商談スケジュールを確認できるモニター（概ね32インチサイズ以上）を設置すること。なお、表示するためのPCは連盟が持参するものとする。
- (3) 電子機器（PC、ポケットWi-Fi等）を同時に5台程度充電するためのスポットを準備すること。
- (4) 業界日終了後（令和8年9月25日（金）18時以降）には一般日用のレイアウトに転換または一部撤去を行うこと。

10 記念撮影コーナー

- (1) コンテンツテーマに沿ったコーナーとし、来場者を惹きつける本ブースのメインシンボルとなるコンテンツを展開すること。
- (2) 動きのある造形物やトリックアートなど来場者が写真を撮りたくなるようなコーナーとし、音や光の演出などで注目を集める工夫を凝らすこと。
- (3) 撮影スペースはブース内に配置し、行列がはみ出さないような動線、人員配置計画を施すこと。

1.1 観光情報コーナー運營業務

- (1) ブース内に1面以上の壁面を設置し、福井県内の観光スポットや食文化の情報発信を行うこと。情報発信においては連盟が運営する福井県観光公式サイト「ふくいドットコム」「DISCOVER FUKUI」などの観光情報や首都圏からのアクセスを発信できるコンテンツとし、来場者の目に留まりやすいツールを使用すること。
- (2) 発信する情報については短時間で周遊する来場者、具体的な観光情報を欲する来場者とも楽しめるコンテンツを企画すること。観光情報に対する事実確認も受託者が責任を持って行うこと。また、来場者の円滑な周遊を阻害せず、参加状況を確認可能な仕組み（スタンプラリー、シール・カード集めなど）を設けること。

1.2 食文化PRコーナー運營業務

- (1) 福井の食文化をPRでき、老若男女問わず楽しめるコーナーを展開し、背景や由来を含めたストーリー性のある情報発信を行うこと。
- (2) 一般日（9月26日、27日）は実演や試食等を実施し、五感に訴える企画を展開すること。実演・試食の実施時間および提供数は以下を目安とする。

	9月26日	9月27日
実演の場合	4時間以上	4時間以上
試食の場合	2,000食程度	2,000食程度

- (3) 試食を提供する場合は無償提供とすること。
- (4) 実演や試食を実施しない日時帯は同スペースを有効活用すること。
- (5) 実施企画に応じ、事前に調理および試食提供可能であるか現地の関係機関に確認の上、企画すること。
- (6) 必要となる主催者等への申請を漏れなく行うこと。
- (7) 実演、試食を行う場合の衛生面については十分に配慮すること。
- (8) 実演、試食を行う関連商品に限り販売を実施してもよい。
- (9) 販売についてはキャッシュレスを基本とし、現金の授受などの販売業務一式は受託事業者側で行うこと。

1.3 インフォメーションコーナー・体験ワークショップ運營業務

- (1) 1.1 (2) に参加した来場者に対し、景品等を提供するコーナーを準備すること。準備するスペースは①～④とすること。なお、抽選方法は複雑にせず簡易な仕組みを考えること。
 - ① 受付
 - ② 抽選
 - ③ 引換場所、体験ワークショップスペース
 - ④ スtockヤード（パンフレット、備品用）
- (2) 体験ワークショップは段ボール恐竜お面、なりきり紙バッグの実施を基本とする（別添2参照）。段ボール恐竜お面については[一般日]令和8年9月26日（土）～27日（日）の実施を想定。

1.4 準備物保管・運搬業務

- (1) 受託者は連盟が準備する荷物運搬の手配を行うこと。運搬については受託者の準備物と同便での運搬でもよい。
- (2) 開催1ヶ月前から準備物を保管する場所を連盟付近（概ね3km圏内）に準備すること。また、会場への発送時には運搬に必要な荷造り、梱包等を行うこと。
 - ・体験型ワークショップ用消耗品（160サイズ段ボール20箱程度）
 - ・パンフレット（160サイズ段ボール10箱程度）
 - ・ノベルティ（160サイズ段ボール5箱程度）
 - ・その他事務用品等（50Lコンテナ12箱程度）

1.5 連盟の負担・準備物

ブース運営において連盟が負担、準備調整する物品は以下のとおりとし、必要に応じて活用すること。

- (1) 体験、ワークショップ用消耗品（別添2-1参照）
 - ・段ボール製恐竜お面 300セット程度
 - ・なりきり紙バッグ 1,000部程度
- (2) パンフレット、ビニールバッグ

1.6 実績報告書

事業終了後、令和8年10月30日（金）までに下記を含めた実績報告書を提出すること。

- (1) 実施内容の写真等を含めた効果測定報告
- (2) ブース来場者の集計

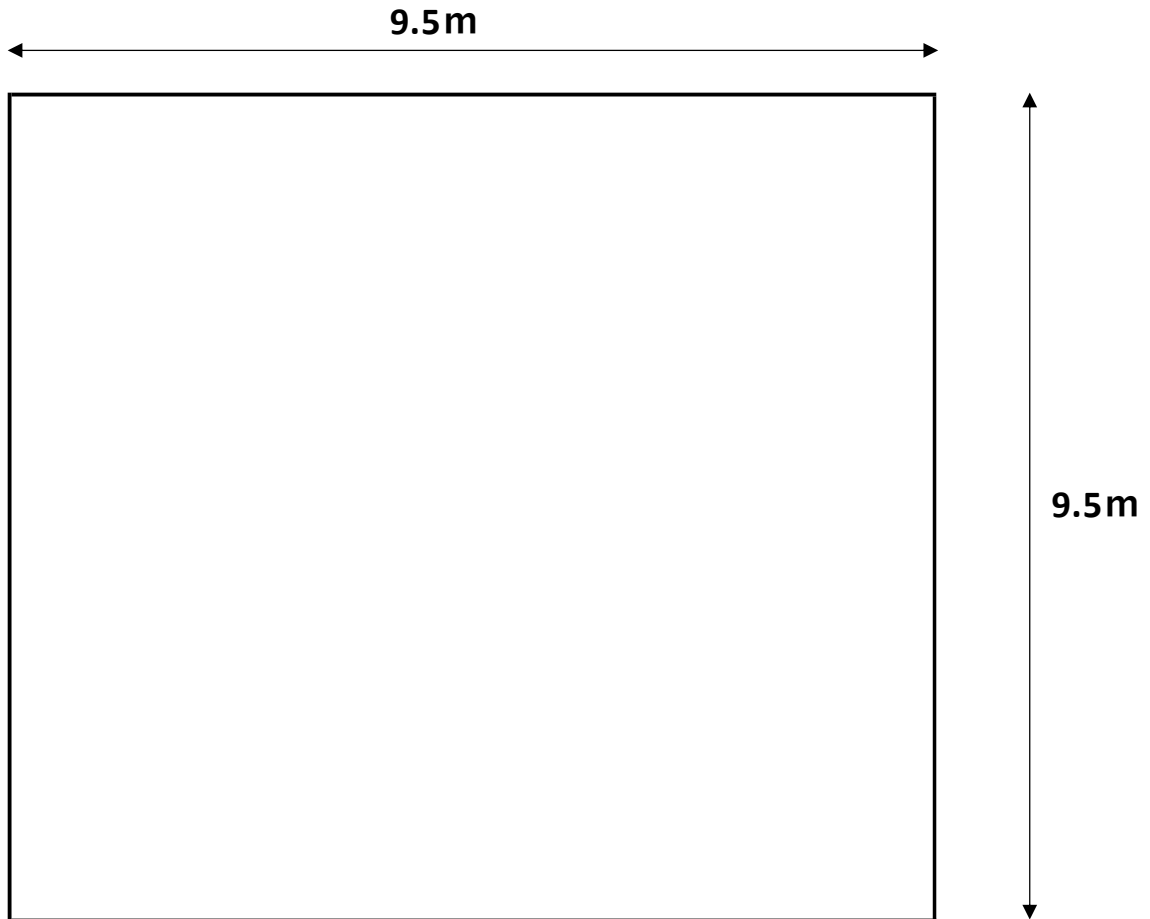
来場者の集計については連盟の承認を得た上であれば定点観測等による推計も可とする。

1.7 その他

- (1) 企画内容については、委託予定金額の範囲内で実施可能な内容とする。
- (2) 連盟が運営するSNS（Instagram、X、Facebook）への登録およびフォローを促進するための企画を実施すること。なお、当該企画については、11から13に定める企画への参加条件とすることを含め、契約締結後に協議のうえ決定するものとする。
- (3) ブース出展にかかる賠償責任保険、傷害保険に加入すること。なお、本委託の運営・管理等に対して適用可能な他のイベント保険にすでに加入している場合はこの限りではない。
- (4) 本業務の実施において、担当者と打ち合わせを行い、かつ、業務上知り得た情報については契約期間中および契約終了後においても一切漏洩してはならない。
- (5) 本仕様書に定めのない事項や細部の業務内容については、その都度、連盟と協議のうえ、定めるものとする。また、業務内容に疑義が生じた場合も同様に協議のうえ、解決を図るものとする。

別添 1

ツーリズムEXPOジャパン2026ブース配置イメージ



別添 2

1 体験型ワークショップ消耗品
段ボール製恐竜お面



組み立てて頭から被るタイプのお面づくり



昨年の様子

なりきり紙バッグ (イメージ)



持ち手部分を後付けする体験



昨年の様子